

発行/坂城町公民館 発行人/清水 守 編集/広報部 印刷所/滝沢印刷(同)
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722

リトミック教室修了おめでとう!!



◆主な内容◆

- ふるさと探訪PART106 2~4P
- 更埴地区短詩型文学祭入賞作品 5P
- 行事から、500字リレートーク 6~7P
- 4月からの講座参加者募集、館説 開敵 8P

お友達もいっぱいできたね!

公民館講座リトミック教室修了式を2月26日(水)に開催しました。みんな元気よく、公民館長から修了証をもらいました。

お知らせ

坂城町公民館文化講座

令和2年度文化講座の受講生を募集します。なお、全講座初心者を対象とした講座ですので、ぜひお申し込みください。なお、複数の講座の受講もできます。

俳句	短歌	茶(表千家)	茶(裏千家)	NEW 楽詩をむ	NEW 季節の郷土料理
自主講座 盆栽	古文書	絵画	陶芸	木彫	書道
					コーラス

申込期日 4月1日(水) 午後1時30分から
4月16日(木)まで
※年度途中からの受講も受け付けます。

申込場所 文化センター内、坂城町公民館(2階)
※申込書は、公民館にあります。

受講料 1人1講座につき受講料3,000円

開講式 4月17日(金) 午後7時00分~
文化センター大会議室
※講座の進め方などの打ち合わせを行いますので、必ず出席してください。

その他 講座の詳細は「まなびの玉手箱」をご覧ください。

問い合わせ先 電話 82-2069 (町公民館)



成人式実行委員募集中!

今年の8月15日(土)に予定している成人式ですが、実行委員になっていただける方を募集していますので、興味のある方は公民館事務局まで連絡してください。
該当者:平成11年4月2日から平成12年4月1日生まれの方です。

リトミック教室

音楽(リズム)を用いて人間形成に欠かせない「社会性」、「創造性」、「感受性」を育てる楽しい講座です。保護者と子どもで参加してください。

申込開始期日 4月6日(月)から開始
5月13日~2月24日 毎週水曜日(年間40回)
午前10時~11時30分

会場 文化センター大会議室

指導者 中沢敏江さん(リトミック研究センター特別講師)

対象 1歳半~3歳児とその保護者

受講料 8,000円 **定員** 20組



キッズスポーツ

軽運動や楽しいゲームなどで基礎的な身体づくり、コミュニケーションづくりをする講座です。

申込開始期日 4月13日(月)から開始
5月13日~3月3日 毎週水曜日(年間30回)
午後4時30分~5時30分

会場 文化センター体育館

指導者 長野体育指導センター指導員

対象 4・5歳児

受講料 15,000円 **定員** 30名



生活改善で葬儀、婚儀をする場合の案内状に同封する通知文は文化センターにあります。ご利用ください。

葬儀・・・香典1,000円、法事3,000円 香典返しは半返し以内で。花輪は辞退しましょう。近親者はこの限りではありません。
婚儀・・・祝儀(会費)3,000円 引き出物、記念品を出さない。近親者はこの限りではありません。

台風十九号による災害の復旧工事が始まり、明るさが見えだした矢先に、新型コロナウイルスの初めから学校が一斉休業になるなど、前例のない事態となりました。町や公民館主催の集会やイベントも中止あるいは延期を余儀なくされ、大勢の方がその影響を受けました。分館対抗の球技大会(スマイルボウリング)は、小学生から高齢の方まで参加でき、楽しみにしていた人が多かったのですが、準備を進めてくださった分館の役員さんも含め、皆さんに申し訳ない気持ちで一杯です。

仲間同士が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」ことを促し、人づくりや地域づくりに貢献することが公民館の役割です。この「つどう」ことがしばらくできなくなってしまうかもしれませんが、このことがきっかけになって、公民館活動がしぼんでしまわないうよう心から願っています。

公民館は、もともと太平洋戦争の敗戦による混乱と荒廃の中で、郷土復興を掲げ、官と民が一体となってつくり出されたものであることを思い起こし、新型コロナウイルスの感染収束後、再び皆様とともに公民館活動を盛り上げていきたいと思っています。

来年度の新しい文化講座もできましたので、大勢の方の受講をお待ちしております。

館説
開敵

特集 ふるさと探訪 PART 106

千曲川に棲む鳥たち③「瀬に現れる鳥、淵に現れる鳥」



ふるさと探訪は、千曲川の鳥についてシリーズで掲載します。寄稿者は、笠原里恵さんです。

文責 笠原 里恵 (かさはら さとえ)
長野県生まれ。信州大学大学院教育学研究科に進学してから20年近く、千曲川に生息する鳥類の生態について研究を続けている。2019年4月より、信州大学理学部附属諏訪臨湖実験所に所属。今後は諏訪湖を中心に湖沼の鳥も研究していく予定。

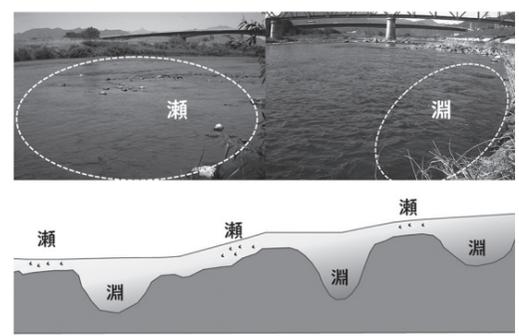


図1 河川をかたちづくる瀬と淵

○瀬と淵
川を眺めると、白波を立てて勢いよく流れている場所や滑らかな水面の下で穏やかに流れている場所、底まで見える浅い場所や水の色が濃く見える深い場所など、水の中にも様々な環境があることがわかる。
川が蛇行する際に、岸に流れが当たるなどして深く掘れた部分は淵とよばれる(図1)。水深が深く流れは穏やかで、速い流れが苦手な魚や底生魚、稚魚などの生息場所となる。淵と淵の間をつ

なく相対的に浅い流れは瀬とよばれ、流れが穏やかな瀬は平瀬、水面が白波立つような速い流れは早瀬と呼ばれる。瀬では水中まで日光が届きやすいので藻類が成長しやすく、波立つ場所は空気が水中に取り込まれやすいことで酸素の供給量が多くなり、水生昆虫が相対的に多く、それらを食べる魚も生息する。

○自動撮影カメラを使った出現鳥類調査
ある環境での鳥の豊富さや種数を調査する方法としては、観察者が調査地点で一定時間観察をし、見聞きした鳥の姿や声を識別して記録する方法が基本である。しかし、開けた水域での観察は、鳥から人がよく見えることで鳥の警戒心を強め、飛来状況や行動を普段と変えてしまう可能性がある。とはいえ、対岸や橋の上など離れた場所からの観察は、観察者が小さな鳥を見逃してしまうかもしれない。

範囲の外まで移動している、撮影された写真には鳥が写っていないということが珍しくない。そこで、千曲川の調査では、赤外線センサーではなく、一定時間毎に自動撮影する設定を用いた。近年の自動撮影カメラは、人や動物が感知しにくい波長の赤外線を照射して撮影するので、夜間撮影の際にまぶしいフラッシュで動物を驚かしてしまいう心配も少なく、昼夜問わず調査ができるのもよい点である。

○自動撮影カメラを使った出現鳥類調査
人の影響を軽減し、野生動物の自然な状態を記録するのに役立つのが自動撮影カメラである。自動撮影カメラでは、赤外線センサーで動物の熱を感知して撮影するのが一般的なが、素早く飛ぶような鳥の場合、センサーが感知しても、撮影時には鳥がすでに撮影可能な

第53回 坂城町席書大会・書初展

第53回席書大会・書初展を、1月4日～6日に開催しました。席書大会では、64人が参加し、書初めをしました。書初展には、111作品が出品され、多くの皆さんに観覧していただきました。入賞された方々を紹介いたします。

敬称略

◆坂城町長賞
坂城小6年 西澤 早絵

◆町教育長賞
南条小6年 片山 夏美

◆町書道協会会長賞
村上小2年 星本 真希

◆中学生の部金賞
坂城中2年 米田 愛祈

◆金賞
坂城幼稚園 成澤 岳

坂城小5年 大井 翔平
南条小4年 小出 久遠
高 池田 早良
校 小出 真生
はにしな寮 田ノ上 真生
宮坂喜和子
原 友子
松本 晃
望月 啓子
高井 綾子
市来 高子
山崎 貴勇

◆銀賞
坂城小2年 富山 心菜

南条小2年 成澤 葵
3年 千野 依
4年 小林 聖
6年 中島 結大

坂城中1年 水出 琉惟
2年 柳澤 光樹
3年 三井 悠靖
高 栗原 夏来
校 竹内 亜美
一般 片岡佐和子

◆銅賞
坂城小1年 石倉 由麻

1年 仙田 祐月
3年 岩浅 采実
5年 玉井 夢来
5年 林 里奈
6年 栗原 莉来

南条小2年	6年	宮沢 華奈
6年	本藤 真宏	
4年	鈴木 悠友	
4年	小宮山 瑛太	
5年	真柴 澄伶	
5年	塚田 真心	
5年	山岸 果穂	
6年	中島 真希	
6年	山下 莉子	
6年	宮下 穂華	
5年	山城 廣明	
2年	玉井 遥斗	
2年	山岸 柚菜	
3年	斎藤 なつき	
3年	重倉 嶺	
3年	塩入 大智	
3年	千野 加恵	
3年	中村 俊介	
3年	柳澤 郁子	



500字リレートーク

「ひと」をつなげる音楽

坂城町立南条小学校
荒井 陽花

小学校でマーチングに出会い、四年生からマーチングバンドに入りました。中学高校では吹奏楽部に入部しましたが大学生になり、社会人バンドである松本シティーマーチングバンドに入隊しました。マーチングとは「歩きながら楽器演奏をする」こと。長野市立裾花小学校や佐久市立浅間中学校が全国大会へ進むなど、県内でもマーチングの活動は盛んに行われています。私たちのバンドは、松本ぼんぼんやOMFなどのイベントでパレードをさせていただったり、大会に出場し演奏演技をしたりしています。

このバンドに所属して5年、今でもこうして大好きな音楽にかかわる場があることに改めて感謝しています。時に、様々な世代や職



荒井本人です。

第48回 文化祭開催

～したしむ・つくる・ふれあう・ささえる～

町文化祭を10月26日、27日の2日間、文化センターなど3会場で開催しました。また、図書館まつりも同時に開催、体育館では小・中・高生をはじめ、多くの素晴らしい作品が展示されました。芸能公演は、出演された皆さんが熱気にあふれ、日頃の生涯学習に取り組まれている姿がうかがわれました。

文化の館では、表千家、裏千家の皆さんによるお茶席が設けられました。なお、開祭式では85歳以上で今なお現役でご活躍されている会員の皆さんに文化協会から表彰がありました。



文化協会高齢者功労表彰



作品展示



芸能公演 (南日名神楽若者連)



芸能公演 (子どもフラケイキの皆さん)

第49回 元旦マラソン大会

毎年恒例の元旦マラソン大会が行われました。新年早々に好天に恵まれ、昨年より多い514名が参加しました。入賞された方々を紹介いたします。

— 敬称略 —

○6 km 一般の部 男子

- 1位 眞田 稜生 (上田市)
- 2位 田中 圭 (長野市)
- 3位 小林 勝太 (立科町)

○3 km 小学生の部

- 1位 平林 篤 (村上小6年)
- 2位 西沢 玲央 (村上小6年)
- 3位 関 駿介 (南条小4年)

○6 km 一般の部 女子

- 1位 小林 千紗 (松本市)
- 2位 齋藤 奏絵 (諏訪市)
- 3位 関 真優 (上田市)

○1.5 km 小学生の部

- 1位 小宮山剛士 (村上小3年)
- 2位 吉池 琉仁 (坂城小4年)
- 3位 佐野 希桜 (中洲小3年)

○6 km 小学生の部 男子

- 1位 宮崎 快斗 (村上小6年)
- 2位 田畑 亮介 (城下小3年)
- 3位 丸山 航生 (山形小3年)

○6 km 小学生の部 女子

- 1位 菊地 遙奈 (祢津小6年)
- 2位 田畑 香奈 (城下小5年)
- 3位 北原 和 (上田西小5年)

○3 km 一般の部

- 1位 田中 聖 (長野市)
- 2位 齋藤 英明 (上田市)
- 3位 山上 聡 (上田市)



※ペアにつきましては、順位がありません。

よくあり、そのたびに写真を拡大したり、前後の写真と何度も見比べたりと、解析には撮影枚数に応じた労力がかかる。

○瀬と淵に出現する鳥類とその違い

自動撮影カメラを千曲川の中流域に設置し、春夏秋冬のそれぞれの時期に約一週間ずつ撮影調査を行った。

その結果、季節によって増減はあるものの、瀬と淵の両方で最も多く記録されたのはカモ類であった。周年生息するカルガモや繁殖期によく見られるオシドリに加え、千曲川では、秋から冬、そして春先まで、北の地域や国々から飛来したコガモやマガモなどのカモ類が越冬する。これらのカモ類は藻類や水草を主食とし、無脊椎動物なども食べる。撮影された写真でも、水面に浮きながら首を水中に入れて採食する姿がよく見られた(図2)。カモ類

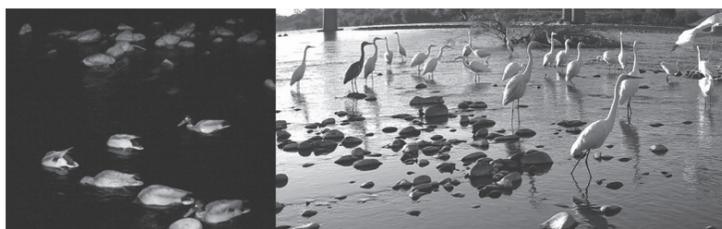


図2 鼠橋(坂城町)付近で撮影された夜間に採食するマガモの群れ(左) 万葉橋(千曲市)付近で撮影された早朝のダイサギとアオサギの群れ(右)

は複数の個体で構成された群れで行動し、採食や休憩などと同じ場所に長時間滞在することも多いため、全体の記録数が多くなったと考えられる。

カモ類のように水面に浮いている姿を見かけるのがカイツブリやカワアイサである(図3)。これらの種は、水の中に潜り、泳いで小魚を捕らえる鳥たちであ



図3 カイツブリ(左)とカワアイサ(右)

り、カモ類とは異なって淵によく出現する傾向が見られた。カモ類以外で記録数が多かったのは、アオサギなどのサギ類(図2)やセグロセキレイなどのセキレイ類およびイカルチドリなどのおよびイカルチドリなどのシギ・チドリ類(図4)であった。水の中や水面に突き出した石の上を歩き回りながら採食するこれらの種は、瀬で多く記録された。また、瀬では水鳥だけではなく、ツグミやハシブトガラス、ムクドリなど、普段



図4 千曲川でよく見られるセグロセキレイ(左)とイカルチドリ(右)

は草地や市街地などで見られるような陸上の鳥たちもしばしば記録された。全体として、撮影された鳥の種数や記録の多さを瀬と淵で比較したところ、相対的に瀬の方が種類も記録数も多かった。

○鳥が多い瀬、少ない淵

千曲川の複数の地点に設置した自動撮影カメラの記録解析を進めるにつれ、同じく「瀬」と呼ばれる環境でも、鳥の出現状況がずいぶん異なることがわかってきた。図5は、どちらも同

じく環境としては「瀬」であるが、図5左の瀬ではカモ類をはじめサギ類、シギ・チドリ類などの水鳥からカラス類などの陸上の鳥まで、様々な種類の鳥たちが数多く記録された。一方で図5右の瀬ではカモ類やサギ類は記録されたものの、セキレイ類やシギ・チドリ類などの記録数は圧倒的に少なかった。同じ「瀬」であるにもかかわらず、この違いはなぜ生じたのだろうか？

その理由を考えるための手掛かりは写真の中にあっただ。写真の中の鳥たちがどこにいるのかを改めて確認すると、サギ類などは水の中に立っていることが多かったのに対し、セキレイ類やシギ・チドリ類では水の中よりも石の上にいることが多かった。この違いは、鳥たちの体の大きさや脚の長さや関係しているように思われる。体が大きく脚の長いサギ類では、水中を歩き回って採食することが可



図5 鳥類の出現頻度が高かった瀬(左)と低かった瀬(右)

した陸上の鳥類に対しても同じように水へアクセスする際の足場として役立つと考えると考えられる。

能だが、体の小さなセキレイ類やシギ・チドリ類は、自分の足の長さを超える深さには立つことができないため、多くの場合、石の上から水中の餌動物を捕らえていると考えられる。つまり、水面に露出した礫は、セキレイ類やシギ・チドリ類にとっての採食時の足場であり、水生昆虫などの水の中にある食物資源へのアクセス性を高める重要な環境なのだ。同様に、露出した礫はカラス類をはじめと

できるわけではないので、可能性のある環境要素をさらに検討する必要があるだろう。

○カモ類の昼と夜

鳥たちの多くは昼に活発に活動し、夜はねぐらなどで休む昼行性であるが、その逆の活動パターンをもつ夜行性の種や、昼夜ともに活動と休息を行う種もいる。昼行性で身近な鳥といえ、夕方、夕方に駅前などの樹木や電線に集まる大きな群れが印象的なカラス類やスズメ、ムクドリ、セキレイ類などがある。夜行性の鳥ではフクロウが代表的であろう。そして、昼夜両方とも活動する鳥に含まれるのが、アオサギやシギ・チドリ類、カモ類などである。千曲川の調査でも、これらの鳥が自動撮影カメラに記録された時間帯は様々であった。

ただし、アオサギやシギ・チドリ類が記録された環境は基本的に瀬であったのに

対し、カモ類が記録された環境は昼夜で異なっていた。カモ類は、瀬では相対的に夜間に記録される頻度が高かったのに対して、淵ではほぼ昼間にしか記録されなかった。この理由について明快な答えは持ち合わせていないが、一つの可能性として、カモを襲って食べる生き物、すなわち捕食者の存在があるかもしれない。

カモ類の捕食者にはキツネなどの哺乳類のほか、タカやハヤブサなどの猛禽類がいる。昼間に浅い瀬に長く滞在すると、空から襲われた際に逃げ切れない危険が高まるが、夜間は猛禽類が活動しないので、安心して瀬で食物となる藻類などを採食できるのではないだろうか。昼間に淵に滞在する理由についても、可能性として、淵は深いので、哺乳類は近づけないだろうし、猛禽類に襲われたとしても、いざとなれば水中に潜って危険をかわすことが



図6 万葉橋(千曲市)付近で夜間に撮影されたタヌキ(左)とシカ(右)

笠原 里恵

第二十四回更埴地区短詩型文学祭入賞作品

去る11月16日(土)、更埴公民館運営協議会(坂城町と千曲市で構成)主催の文学祭表彰式が、千曲市稲荷山公民館で開催されました。坂城町の入賞作品を紹介します。敬称は略させていただきます。

一般の部

【短歌の部】

◆佳作

生きにくき世なれど負けぬ友といて
真つ赤なトマトを挽きて頬張る
横田 徳子(網掛)

吾病みて洗濯物千す夫の背に
しだけ桜が静かに揺れる
塩野入はる江(刈屋原)

子供等の声蟬の声空の下
流しソーメンの光りを掬う
滝沢さち子(入横尾)

◆入選

亡き父の仕事場恋し整然と
大中小と並んだ鉋
小宮山洋子(中之条)

【俳句の部】

◆入選

秋めくや道路工事のガードマン
近藤 芳泉(網掛)

遠くきて天山南路月今宵
永井 浩(大宮)

【川柳の部】

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

愚痴ひとつ胸の引戸へ押し込める
中島てるよ(中之条)

◆佳作

ゆとりある暮しへ余生組み直す
小宮山洋子(中之条)

住む人の心が見える花の庭
西澤ひろ子(北日名)

親の愛絆の強さかみしめる
春日とよ子(網掛)

◆入選

病む友の力になれぬもどかしさ
小川 碧(中之条)

【現代詩の部】

◆更埴公民館運営協議会長賞

隣にすわった子に年をたずねる
小さい指を二本立てる
ママがあわてて
二三才になったばかりで
あと一本がなかなか立たないんです
あと一本をどうしようかと考えてる
こちら側のだっこの赤ちゃん

石関みち子(込山)

可愛いあんよが目の前に
—さわってもいいですか
プクプクの可愛いあんよ
少し太つちよの親指と四つの小さい指

高年齢者の多い病院とはちがう
小さな子も通う町のお医者さん
ママが大好きな子どもたちが
大きな瞳で見つめてくれる
窓から見える青い空白い雲
元気に大きくなつてね

可憐な子も通う町のお医者さん
ママが大好きな子どもたちが
大きな瞳で見つめてくれる
窓から見える青い空白い雲
元気に大きくなつてね

ひばり

松澤 瑞枝(込山)

突然 数十年前に引き戻された
ピビピビピ 軽々と早口に鳴く声
思わず走り出て見上げる青い空
ようやく電線の高さに見つけて
ひばり ひばりと叫んでしまった
子どものころは麦畑のあちこちで
鳴っていた
小さな体をふるわせて 急に激しく
羽ばたいて
みるみる空高く舞い上がっていく
そよぐ風に揺れる麦畑
小さな魚 しじみも見える小川
すみれ たんぽぽが咲き乱れていた
今年もまた あの小さなひばりが
力強く一直線に舞い上がり
私を天まで引つ張つていった

小学生の部

【俳句の部】

◆入選

歓声が花火のあとにやってくる
村上小五年 倉科 圭乃

【川柳の部】

◆奨励賞

夏の空星がキラリと笑ってる
村上小六年 永井 結乃

◆佳作

大雨の災害いつか自分事
村上小六年 河野 菜歩